

～オン★ステージ新聞「バレエとオペラ」関連企画 XI～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 93

## 《ギュスターヴ3世》

会期／2023年2月7日(火)～4月7日(金)

(※休館日はwebでご確認ください)

連載／岸純信(オペラ研究者)

協力／渡辺真弓(オン★ステージ新聞編集長/舞踊評論家)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

現在、「オン★ステージ新聞」(青林堂)にて連載中の「バレエとオペラ」関連企画として、常設展をシリーズ開催いたします。本展では、「薄井憲二バレエ・コレクション」から図版提供した記事と共に、実際の資料をご覧ください。第12弾は《ギュスターヴ3世》(2022年8月15日号「バレエとオペラ」第69回)より。どうぞお楽しみください。

### -----「バレエとオペラ」第69回 岸純信 -----

#### オペラは世情を映す鏡 オペラ 《ギュスターヴ3世》

大革命以降、各国はオペラの検閲に神経を尖らせた。宗教的に不敬でも道徳的に難ありでも駄目だが、もっと危なっかしいのは、「政治に纏わるドラマ」である。

しかし、1833年2月のパリ・オペラ座では、まさに「危ないオペラ」が初演された。それが、スクリーブ台本、オペラ作曲の《ギュスターヴ3世》全5幕である。本作は、18世紀末のスウェーデン国王の暗殺をオペラ化したもの。台本では、国王と、彼の忠臣の妻アメリの精神的な不倫を物語の柱にしたが、歴史書曰く、実在の暗殺者である伯爵は「最後まで理由について口を割らなかった」そう。貴族たちと国王の対立は明らかだが、それ以上の事由は不明らしいのだ。

なお、本作大詰めの暗殺シーン—仮面舞踏会の席上—は初演時にはひとときわ壮麗に行われたよう。研究者ルテリエによると、1600本の蠟燭が照らすなか、300名のダンサーが合唱団と共に登場。全員が異なる衣裳を着た。啓蒙君主の宮中を表現すべく、オペラ座側も張り切ったのだろう。

ちなみに、本作の台本が、後にヴェルディの《仮面舞踏会》(1859、ローマ)の原作になったことは有名である。しかし、ローマでは実在の暗殺事件を扱うことに検閲が猛反発し、主人公は植民地ボストンの総督に格下げになった。なのに、四半世紀前のパリでは、史実通りの設定が可能になった。その理由は、新王ルイ・フィリップが民衆に譲歩して検閲を緩めたからである。

このように、オペラは世情を映し出す鏡である。21世紀の日本でも、要人暗殺のその日、テレビドラマが差し替えにな

ったというのに、1833年のパリではこのプロットが通った。しかも、驚きのエピソード入りで。「王妃様はどこですか?」という脇役の一言がそれである。ヴェルディでは総督は独身。しかし、オペラではダブル不倫。よく上演OKになったものである。

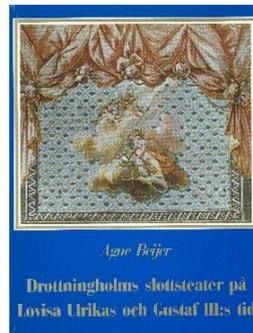
さて、この作品で舞踊場面は2つ。大掛かりなのは第5幕のアルマンド他の5曲(19分弱)。しかし、音楽的により面白いのは、第1幕で国王自ら作った演劇に組み込む2つの舞曲《Songe Andantino》《Songe Allegretto》である(9分弱)。国王の歌声も時折入るなか、不安げなハーモニーが緊張感を徐々に表出、バスーンと低弦がゆっくり神秘的に響き渡るのを聞くと、「目で見てみたい!」と思えてしょうがない。近年の蘇演は2003年にあっさり。でも、近い将来、本格的に蘇るはずと思いたい、個性著しい佳作である。

【補足】ギュスターヴ(グスタフ)3世(1746-1792)は、実在のスウェーデン国王です。有力貴族に握られていた国政を、即位直後のクーデターで取り戻した啓蒙君主で、国民にも人気の高い王でした。フランス文化に傾倒し、スウェーデン王立歌劇場の建設や、王立歌劇団、王立バレエ団なども設立しています。

ところが、1792年3月16日、その王立歌劇場で催された仮面舞踏会の中、ギュスターヴ3世は、政敵による銃撃に倒れます。華麗なる仮面舞踏会での、衝撃的な国王暗殺……この史実をもとに創られたのが、オペラ《ギュスターヴ3世》です。その華やかな雰囲気は、資料からも随所に感じられることでしょう。

### 出展資料

- ◆ AP-017 アンティークプリント/リズ・ノブレ/  
《ギュスターヴ3世または仮面舞踏会》/フランス/1833年頃
- ◆ ST-BL-89 切手/《ギュスターヴ3世または仮面舞踏会》、  
「スウェーデン王立歌劇場」「パリ・オペラ座」/スウェーデン  
=フランス共同発行/2012年
- ◆ ST-BL-65 切手/フランスとスウェーデンの文化交流/  
「1784年 トリアノンでのギュスターヴ3世のための祝宴」他  
/スウェーデン=フランス共同発行/1994年
- ◆ BK-1098-bh 書籍/『ロヴィーサ・ウルリカとギュスターヴ  
3世の時代のドロットニングホルム宮殿劇場』/  
著:アグネ・バイヤー/スウェーデン/1981年



### 兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用